

令和9年産

大麦栽培こよみ

あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

目標

●整粒歩合…80%以上

●品質ランクA格付…100%

●単収…350kg/10a

(品種:ファイバースノウ) 容積重 690g/ℓ以上
白 度 43以上 細麦率 2.2mm(篩)下に2.0%以下
硝子率 40%以下 ※肥料・農薬名は農協の推奨品目です

月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

生育段階

播種期

3葉

分けつ期

積雪期間

節間伸長期

茎立期

止葉展開期

出穂・開花期

成熟期

苗立の安定化

茎数の確保

越冬前の生育量確保

穂数確保

登熟向上

主 な 作 業

◎稲刈り直後、額縁排水溝を設置した排水溝に連結する

◎心土破碎(サブソイラ等)

◎堆肥・石灰質資材施用(pH 6.0〜6.5を目標とする)

◎雑草防除の徹底

※土壌が乾いたほ場から早めに播種を実施(10月中旬までに完了)

◎播種作業(耕起・播種・基肥施用)は1日で終える

◎種子消毒(播種前日までに)

◎排水溝の手直し(随時)

◎年内追肥1回目(播種1ヶ月後)

年内追肥
(葉色が淡くて茎数が少ないほ場のみ)

◎消雪直後の追肥2回目

排水溝の掘り下げ

◎排水溝の点検と手直しおよび

(雪がとけたら)

◎止葉展開期の追肥3回目

(出穂11日前)

◎赤かび病2回目防除

(第1回防除の7日後)

◎赤かび病1回目防除

(開花始(穂揃期))

◎雑草(カラスノエンドウ)等の除去

◎刈取り(水分は30%を目安に刈取開始)

(適期刈取りの実施)

(収穫後4時間以上堆積しない)

◎作付けしない場合は雑草対策に努める

◎収穫後は大豆やソバ、クロタリリア等を

排水対策+適期播種で生育量確保



●全量基肥体系(ドリル播のみ) (kg/10a当たり)

施用資材	肥料名	使用時期	使用量	N	P	K
基 肥	エコ大麦44号(15kg袋)	播種時	45	13.5	2.3	4.1

※原則、追肥しない。

●分施肥体系(表面散播) (kg/10a当たり)

施用資材	肥料名	使用時期	使用量	N	P	K
基 肥	基肥30	耕起前	35	5.2	2.4	2.8
追肥1回目	輸入尿素	11月上旬	9	4.1		
(年内追肥)	(輸入尿素)	(12月上旬)	(4)	(1.8)		
追肥2回目	輸入尿素	消雪直後	6〜9	2.8〜4.1		
追肥3回目	輸入尿素	止葉展開期	0〜4	0〜1.8		
計				12.1〜15.2	2.4	2.8

※止葉展開期追肥は、葉色が濃い場合や茎数が多い場合は減肥する。
※尿素は窒素濃度が高いことから散布ムラに注意する。
※尿素は固結に注意し、開封したら必ず使い切る。

畦畔・農道の草刈りの徹底

刈取適期の目安



水分30%
(屈曲した穂の割合が50%程度)

(早刈り=空洞粒
刈遅れ=硬質粒
収穫ロス)

～めざせ! あおば大麦の高品質・安定生産!!～

富山県産大麦は品質の高さから主に主食用途として利用されており、安定した供給が求められています。

【大麦栽培のポイント】

◆ポイント1 排水対策の徹底と土壌pHの矯正

- 稲刈り後、直ちに額縁排水溝を設置し、掘り下げた排水口と連結する。
- 透水性の悪いほ場では、心土破碎を実施する。
- 排水溝の手直しは随時行い、こまめにほ場の排水に努める。
- 大麦は土壌pHが低いと生育が抑制されるので、pH6.0〜6.5となるよう、石灰質資材は必ず散布する。

◆ポイント2 ほ場の乾きを見ながら適正に播種

- 播種は10月上旬を基本に、9月6半旬から10月中旬で完了する。
- 播種時期に応じた播種量で目標苗立数を確保する。
- 耕起〜播種〜作溝連結は土が乾いた状態で行い、1日のうちに作業を終える。
- ドリル播きでは、適正な播種深度(3cm程度)となるよう、丁寧に作業する。

苗立数・播種量の目安 ※①、②がおすすめ

播種時期	①9月26日〜30日	②10月上旬	10月中旬
目標苗立数 本/㎡	140	150	200
ドリル播 kg/10a	6.5	7.0	9.0
表面散播 kg/10a	7.0	7.5	9.5

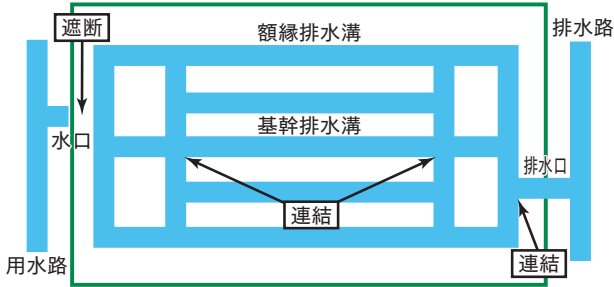
(土壌水分が高い場合は、表面散播に切り替える)

※近年ドリル播きのほ場で、雑草繁茂による収量減の事例が多発している
ので、播種後に下記の除草剤を散布する。

●ドリル播種の除草剤対応

	除草剤名	10a当り散布量	処理条件
播土壌後処理	トレファノサイド粒剤2.5	4〜5kg	は種後出芽前または生育期雑草発生前(但し、収穫45日前まで)
	リベレーターG	4〜5kg	は種後〜麦2葉期(雑草発生前〜イネ科雑草1葉期まで)
	リベレーターフロアブル	60〜80ml (希釈水量100ℓ)	は種後〜麦3葉期(雑草発生前〜イネ科雑草1葉期まで)
茎処理	ハーモニーDF	5〜10g (希釈水量100ℓ)	は種後〜節間伸長前

ほ場の排水対策



土壌改良資材等施用の目安

資材名	施用量(10a当り)
苦土石灰	100〜200kg
堆 肥	牛糞・豚糞 1〜2t
	発酵鶏糞 100〜200kg

◆ポイント3 種子消毒と赤かび病防除は確実に

●種子消毒

薬 剤 消 毒
・ベンレートT水和剤20を乾燥種子重量の0.5%湿粉衣
・種子10kgに50gの薬剤を入れ、水200mlを加用して混和する

●赤かび病の防除

- ・赤かび粒の混入限度は0.0%
- ・2回の防除と畦畔・農道の草刈りを徹底する

防除時期	薬剤名	10a当り散布量
1回目 (穂揃期)	トップジンM粉剤DL	4kg
	トップジンMゾル	1500倍液・150ℓ
2回目 (1回目の7日後)	ワークアップ粉剤DL	3kg
	シルバキュアフロアブル	2000倍液・150ℓ

※詳細は特報にてお知らせします。

◆ポイント4 収穫時の異物等混入防止

- 収穫前に、カラスノエンドウ等の雑草や、ビニール・プラスチックなどの異物がないか、ほ場の見回りを徹底する。
- 収穫時にも落下物の混入がないよう一定の刈取り高さを確保するとともに、丁寧な収穫作業を徹底する。